

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2016, 10, 13 NO, 193

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170
区議会控室 3312-2111(内)2319



区議会決算特別委員会

区民の声を反映した区政運営に転換を

区長のトップダウン政治改めよ

決算特別委員会で、あんさんぶる荻窪の財産交換問題に関連し、区民の区政参画について質問しました。

財産交換や公園の保育園転用、高円寺地域の小中一貫校計画など、区内各地で、区立施設の削減・統廃合をめぐる住民から強い怒りの声が上がっています。(裏面参照) 共通しているのは、区の計画に対して、いくら住民が反対の声や代替案を示しても「計画は決まったこと」と強引に進める区政運営に対する怒りです。

田中区長は、山田前区政のトップダウン政治からボトムアップの政治への転換を掲げていましたが、現在の区長の区政運営はまさにトップダウンだと指摘。

区民が「政策の立案から実施及び評価に至るまでの過程に主体的に参加し、意思決定に関わる」と謳っている自治基本条例の精神に立ち返り、住民との合意形成を得て進めていくという区政運営に転換すべきと求めました。



2017年度予算要望書を提出



日本共産党杉並区議団は、来年度の予算編成に対する要望をまとめ区長に提出しました。要望書は、多くの区民や各団体から寄せられた切実な要望を踏まえ、重点施策37項目・個別施策674項目をまとめたものです。杉並区が、区民の切実な要求にこたえる立場に立ち、来年度の予算編成に反映させるよう求めました。

豊洲新市場 移転中止の検討を



日本共産党都議団の調査によって明らかとなった豊洲新市場の土壌汚染問題は、都政をゆるがす重大問題となっています。

13日朝、西荻窪駅頭での宣伝

朝の駅頭宣伝では「豊洲への移転中止も含め、都民が納得できる解決に向けて全力をあげます」と訴えています。7日の荻窪駅北口の宣伝では「共産党頑張つて下さい」と複数の人から激励がありました。

深刻化する田中区政の「まち壊し」 住民の共同と連帯で暴走区政ストップ

**区内各地で問題発生
わずか数年間で次々と・・・**

田中区政のもとで進められてる区立施設の削減等が区内各地で深刻な影響を及ぼしています。区民の財産である区立施設が次々と再編・削減の対象となり、田中区政のわずか数年間で廃止されようとしています。杉並区政史上前例のない「まち壊し」が進んでいます。

この間、大きな問題となっている公園転用保育園整備問題は、子どもたちの拠点である公園の撤去工事が強行されました。

杉並区が誇る科学館は、日本全国の科学者が存続を求め、声を上げるなか廃止され、更地化の工事が始まっています。



向井公園

あんさんぶる萩窪は、国との財産交換が進められ、築13年程度の施設が廃止されようとしており、地元町会長が杉並区を相手に訴訟を起す事態となっています。



あんさんぶる萩窪には萩窪北児童館が、子どもの居場所を守れと地域を挙げて反対の声が、商店街のアーケードには横断幕。



近隣住民は突然の計画の通達に驚き、区に対し話し合いを要請。しかし、区は話し合いが続くなか工事を進めるためのボーリング調査を強行・・・



ここでも、公園をつぶさないでと叫ぶ手作りのポスターが周囲の住宅に。



高円寺地域の小中一貫校問題では、3・5校分の小中学校を一校に統合するため、施設が大規模化し、周辺環境に甚大な影響を及ぼす見通しです。

広がる住民運動

田中区長の「まち壊し」に対して、区内各地で、住民が計画中止を求める声をあげています。これほど大規模に区内各地で住民の声が広がっていることは前例がありません。

地域ごとに住民要求は異なりますが、共通していることは「計画先に取りき」「住民無視」の区政運営の問題点を指摘する声です。

「住民が主人公」の区政に

田中区政の暴走を止めるためには、各地で広がる住民運動が共同と連帯を深めることが必要です。

党区議団は、地域運動と共同し、「住民が主人公」の区政に転換するために、全力をあげます。